



杉並区立四宮小学校

令和6年5月31日

みんなはひとりのために 一人はみんなのために

校長 浮ヶ谷 優美

表題は、『友だちはいいもんだ』という歌の一節です。盛んに歌われていた時期に、口ずさんだことがある方もいることでしょう。私は、この歌の「困ったときは力を貸そう 遠慮はいらない」というフレーズがとても好きです。楽しんだり悲しんだり、喜怒哀楽のふり幅が大きな出来事はストレスや疲れにつながりやすいため、大人になるにしたがって、日々淡々と過ごすことで平静を保とうとしているように思います。しかしながら、成長期にある子どもたちには、豊かな生活体験の中で湧き上がる様々な感情に触れさせ、その感度を高めたいと思っています。(情操教育) これからの人生をよりよく生きていくためには、自らの感情(心の言葉)や感じ方に気付き言語化できるようになること、自分と同様に他者にも感情や感じ方があること、そして自分と他者とは感じ方が異なることに気付くことがとても大切なことだと思います。

「頭が痛い、おなかが痛い、気持ち悪い」という不定愁訴から登校しにくくなるケースが散見されます。こうした不定愁訴は、日々の生活で感じるうまくいかなさや困り感の現れであることも多く、子どもが抱えている困り感や生きづらさに寄り添い受け止めてあげたいと思いますが、その背景を理解するための言語化、心の言葉の開示は欠かせ

ません。しかしながら、自分の気持ちに向き合い心の言葉を言語化することは、子どもに限らず大人でも難しいことです。「つらい、苦しい、できない…」など、弱音を吐くことはためらわれがちですが、楽になることやよりよい解決方法を見つけるために自らヘルプを出すことは欠かせません。

「助けてほしい」と勇気を出してヘルプを出せば、周りの人は手を差し伸べてくれるはずで、周囲の支えを受け励まされた経験のある人は、次は困っている他者に温かく手を差し伸べることができるはずで、弱音を吐くことは悪いことではありません。一人でがんばれないときに周囲に支え励ましてもらいながら困難を乗り越える経験を積み重ねていくことが、たくましさにつながっていくものと考えます。四宮小は「自他の幸せを希求し、人とのつながりを大切にしながら、自らの力で道を切り拓くことができる力強さと優しさをもった児童の育成」を目指しています。そのために、困ったときや苦しいときには臆せずヘルプを出すこと、出されたヘルプに寄り添い「みんなはひとりのために 一人はみんなのために」支え合うこと、支え支えられ「お互いさま」の温かな関係づくりのなかで、力強い人材を育てていきたいと思ひます。

6月の生活目標

廊下を静かに歩こう

- ・ 走らず静かに歩こう
- ・ 右側を歩こう
- ・ 階段では安全に行動しよう。

校内に、右記のようなポスターが掲示してあります。

- ㊦ ずかに
- ろうか㊦
- ㊦ ぎがわを
- ㊦ さしいきもちで

学校では、多くの人が生活し、廊下を歩き来します。廊下に飛び出したり、遊んだりすることはけがや事故につながります。一人一人が左のポスターにあるように廊下歩行のきまりを意識することで、けがや事故を防ぎ安全に学校生活を送ることができます。

6月は梅雨の時期に入ります。雨のために、室内遊びの機会が増えるとともに、廊下も滑りやすくなります。些細なことが大きなけがにつながることも考えられるので、集団での歩行も含め、安全な生活が送れるように指導していきます。

(生活指導部)